

## 平成27年度 第6回総合教育会議 要旨

日 時： 平成27年12月25日(金) 午後3時～5時

場 所： 市役所5階 大会議室

出席者：

構 成 員 藪本市長、里見教育委員長、水島教育委員長職務代行者、井口委員、松本教育長

事 務 局 山本市民ふれあい部長、西本教育企画部長、永尾こども未来部長、藤原調整課長、大江市民協働課長、寺本人権推進課長、大西教育政策課長、野口学校教育課長、横田調整課副課長兼学校教育課副課長

傍聴人の数：3名

### 1 開会、あいさつ

(藪本市長)

- ・今までは各論ごとに議論してきたが、本日はそれらを踏まえ、お手元にお配りしている115頁から成る三木市教育大綱(案)について協議したい。
- ・時間の都合もあるので、本日は8頁から成る概要版と本編を使い分けながら進めていきたい。
- ・本日でこの大綱をほぼ固めたい。しかし、もう少し議論する必要がある部分が出てくると思うので、その場合は越年する形としたい。
- ・それでは、まずは事務局に説明をお願いしたい。基本的には概要版に沿って説明し、説明が足りない部分については随時、本編の方を確認する形で進めてほしい。章立てごとではなく全体を通して説明し、その後に協議に入りたい。

### 2 協議事項

(1) (仮称)三木市教育大綱(案)について

(藤原調整課長)

- ・(仮称)三木市教育大綱(案)概要版に沿って説明。

(藪本市長)

- ・まず初めに、目次や章立てについて議論したい。どなたからでも結構なので、ご意見をお願いしたい。

(里見教育委員長)

- ・まず、本編の「はじめに」の文章について述べる。これは非常に良い文章だと思う。
- ・「はじめに」の部分について、概要版の1頁目にも簡潔に書かれているが、総合教育会議でどのような議論をして教育大綱を策定するに至ったか、また、三木市が一丸となってまちづくりを進めていくことや、三木市を元気にするための一つとして優れた教育を行い、三木市に住みたいと思ってもらえるような教育にしていくのだということ等について、もう少し概要版にも盛り込むべきではないか。
- ・市民の皆さんに公表する際に、この概要版と本編の両方をホームページ等に掲載するのか。それによっても入れ方が変わってくるので、どのように考えているのか教えてほしい。

(藤原調整課長)

- ・事務局としては、概要版と本編の両方でパブリックコメントを行いたいと考えている。

(里見教育委員長)

- ・市民の方々は、なかなか100頁以上もある資料を全部はお読みにならないと思う。概要版であれば読んでもらえるかもしれないので、本編にある大綱策定の趣旨に関する部分については上手く書けていると思うので、その部分をもう少し概要版にも入れてほしい。

(藪本市長)

- ・事務局に確認したい。教育大綱と並んで地方創生計画も策定中であるが、地方創生計画ではパブリックコメントを実施する前に、概要版だけはホームページに掲載しており、年末年始を挟むため、年が明けてからパブリックコメントを行うこととなっている。
- ・教育大綱については、概要版についてもパブリックコメントを実施するまでは、一切表に出さないということか。

(藤原調整課長)

- ・事務局の考えとしては、最終案が固まっていないため、まだ公表は早いのではないかと考えている。

(藪本市長)

- ・地方創生計画もまだ固まってはいないが、おおむねの方向性はそこまでぶれないため、一刻も早く市民の皆さんに見ていただきたいという意味で、概要版については既にホームページに掲載している。
- ・例えば、今日の議論が固まらず越年することになった場合、その間はずっと市民の皆さんには概要版すら公表しないという意味か。

(西本教育企画部長)

- ・本日の会議の内容にもよるが、先ほど藤原調整課長からも説明があったように、現時点では概要版と本編を同時に公表するという形を考えていた。

(藪本市長)

- ・地方創生計画は非公開で議論してきたが、教育大綱はここまで公開で議論をしてきたので、概要版は一刻も早く公表すべきである。大綱策定に関する議論があと1か月も続くかもしれないのに、それまで公表しないというのはどうかと思う。
- ・この点が決まらないと、今から議論をしていくに当たり論点がずれてしまう。

(松本教育長)

- ・これについては、まだ決定していない。現段階で事務局ではそのように考えているということ。

(藪本市長)

- ・まだ未定稿ではあるが、概要版についてはホームページに掲載すべきである。ただし、内容については、今後少し変わる可能性があるという点を明記すること。

(井口委員)

- ・この教育大綱案は良くできている。とりわけ、本編の「はじめに」の部分が良くできており、ここに大綱の中身が凝縮されているように思う。三木市らしさを盛り込んだと書かれているが、その点が全面に出ていると思う。

(藪本市長)

- ・先ほど私が概要版を一刻も早く公表すべきであると述べた。この「はじめに」の部分が概要版には盛り込めていないことについてご意見をお伺いしたい。

(井口委員)

- ・その件については、全くその通りだと思う。

(藪本市長)

- ・「はじめに」の部分をもう少し概要版の方にも盛り込んだ方が良いというご意見か。

(井口委員)

- ・はい。

(藪本市長)

- ・他の委員の方はいかがか。概要版と本編のどちらに関するご意見でも構わない。水島委員はいかがか。

(水島教育委員長職務代行者)

- ・里見教育委員長のご意見に賛成である。

(藪本市長)

- ・それでは、私からも意見を述べたい。
- ・教育大綱という名前の割には、実際の教育大綱の部分がとても少ない。確かに「はじめに」の部分は良く書けていると思うが、第1～3章の前段が非常に長い。本来、教育大綱を論ずるものであるのに、教育大綱に入る前の導入部分が多くあり、なかなか本編が出てこない。
- ・分量的にも、本編を基準にすれば、導入部分はその3倍もあ

り、これでは教育大綱とは言えない。これまでの議論の量にも関わるので、ある程度は止むを得ないと思うが、対外的に公表していくに当たり、教育大綱の中でも基本目標②がとても薄く、本編において僅か3頁しかない。基本目標①と③は、ある程度は書けていると思うが、基本目標②も大きな目標なので、たった3頁で足りるのかどうか。

- ・第1～3章は長すぎるくらいだが、第4章の書きぶりが全般的に薄く、これまでの議論の表層だけを切り取った書き方になっている。この会議では意見聴取人の方にも来ていただき、これまで他市にはないような議論を一生懸命してきたのにも関わらず、意見聴取人の方々が述べられたご意見等がほとんど書かれていない。これだけ議論を尽くして大綱を策定している市は県内で三木市だけだと思うが、この教育大綱は非常に表層的な書き方に過ぎない。
- ・学力についても、もっと突っ込んだ議論をしたし、基本目標③に関しては、県教委の村上参事にお越しいただき、歴史資料館をベースとしたまちづくりについて、かなり深い議論をした。それが何故このような総花的というか、あえて議論を避けるような表面だけを削り取ったような書き方にしてしまったのか。
- ・教育大綱であるにも関わらず、それが全体分量の4分の1しかないのは何故か。このような作り方について非常に違和感を覚える。内容は良く書けていると思うが、特に第4章が弱い。あえてこのようにした理由や意図があるのであれば教えてほしい。

(藤原調整課長)

- ・現状の部分で多くのデータ等を入れているため頁数が増えてしまった。

(藪本市長)

- ・どうしても多くのデータ等を入れたい場合は参考編として付けるべきではないか。そうしなければ、市民の方々が読むに当たり、本編に辿り着くまでにとても長い時間がかかってしまう。
- ・地方創生計画では施策を全て入れている。地方創生計画がベースにあった上で教育大綱があるのではないか。
- ・全体として、こんなにアンバランスなものはない。確かに前

半の現状に関する議論に多くの時間をかけたが、それは後半の教育大綱をより正しい結論へと導きたかったからである。市民の方々にこれをどのようにプレゼンテーションしていくかが事務局の力量ではないか。

(西本教育企画部長)

- ・この会議において、現状及び課題そして方策までの議論が非常に長かったことがあり、頁数の配分についても第3、4章が同レベル程度の厚さになっている。
- ・教育大綱に行き着くまでの現状の分析と課題の洗い出しについては、事務局としては非常に大事な部分であると考えている。

(藪本市長)

- ・そうであれば、意見聴取人の方々が言われた意見等は何故あえて割愛されているのか。

(西本教育企画部長)

- ・その点については、非常に申し訳ないと思っている。もう少し取り入れて再度検討したい。

(藪本市長)

- ・かなりの労力を割いて、色々な職員がこの大綱を作成している中で、地方創生計画についてもどのように作成しているのか等、色々から見ながら進めていってほしい。これは市民の方々に公表するに当たり、非常に読み難いという印象をまず受けた。

(松本教育長)

- ・やはり前段が長いという印象は受ける。第3章については、多くの議論を行ったので、これは置いておく必要がある。第2章については、できる限り資料等を後に持っていき、第4章についてはタイトルに関しても検討し直す必要がある。
- ・第4章の中で、意見聴取人の方が言われたことを入れるという発想はあり、現行のものにも盛り込まれているが、時間を費やした程の入り方はしていないため、もう少し盛り込むことで第4章の内容を厚くしていかないといけない。

(藪本市長)

- ・繰り返しになるが、「はじめに」の部分は良く書けていると思う。しかし、第1章の「三木市教育大綱の策定に当たって」は必要なのかどうか分からない。ここは「はじめに」と一緒でも良いのではないか。いずれにしても、もっと分量を縮めるべきである。また、第2章も半分くらいの量で良い。第3章は、教育長がおっしゃったように必要だと思う。
- ・教育大綱における第4章のタイトルが、「三木市教育大綱」というのはおかしい。第4章を「教育大綱の理念」などとし、第5章において教育大綱における基本方針や具体的な施策を入れることはできないのか。最終的には、教育振興基本計画へとアクションプランをふっていく形になる。
- ・この会議において、せっかく他市にないような議論が出たので、それらを大綱の中に盛り込み、具体的なアクションプランを基本計画に反映していく。そういう意味で、大綱には方針だけを書くのではなく、方針と主な施策を入れるべきである。
- ・また、「はじめに」があれば「おわりに」もあるべきであり、それをどのように基本計画へとつなげていくかと感じた。あくまで、「はじめに」があるので、そういった違和感を覚えた次第である。
- ・この会議に来られた方々は、全体の中のほんの一部の方であり、この場に来られていない市民の方々にも会議で議論した内容をわかっていただくために、意見聴取人の方々からいただいた色々なご意見を生の声として盛り込むべきである。その上でパブリックコメントを通じてご意見を賜るべきではないか。
- ・教育の根幹に関わる議論をしているのにも関わらず、表層的なことしか書かないというやり方は反対である。全体の分量をこれ以上増やすと読み難くなるので、前半を割愛し、後半の分量を増やしていくこと、また、本編と資料編を分けて読みやすくする等の工夫をすべきである。
- ・ここでは、主に第3、4章について議論したいと思うが、その前に第1、2章について、何か特にご意見があれば述べてほしい。

(構成員一同)

- ・特になし。

(藪本市長)

- ・ それでは、まず第3章(本編17頁～)について議論したい。  
ここでは「三木市教育の現状と課題」として、約30頁の分量があるが、概要版も含めて何かご意見はあるか。

(水島教育委員長職務代行者)

- ・ 19～20頁で、「～取組が学力向上につながっていない要因として、定着度の把握等が弱いため～」とあるが、これは何の定着度を指しているのか。指導のやり方の定着度なのか、あるいは、子どもに対する定着度なのか。

(横田調整課副課長兼学校教育課副課長)

- ・ これは、子どもの学習内容の定着度である。

(藪本市長)

- ・ 誤解が生じないように適切なワーディングをお願いしたい。

(横田調整課副課長兼学校教育課副課長)

- ・ 「学習内容の定着度の把握等が弱いため」に変更する。

(藪本市長)

- ・ 水島委員、それでよろしいか。

(水島教育委員長職務代行者)

- ・ はい。

(藪本市長)

- ・ 他には何かあるか。

(井口委員)

- ・ まず27頁に、「家庭教育の第一義的責任は保護者」とあるが、これは家庭教育ではなく、「教育の第一義的責任は保護者」とすべきではないか。
- ・ 次に、28頁にある「情報過多による弊害」という部分についてであるが、ここは非常に重要だと考えている。これを踏ま

えて、58頁に「市のサポート」について述べたい。

- ・この会議においても、市が家庭教育にどこまで介入できるかという議論を行ったが、私はここは大切であると考えている。つまり、この「情報過多による弊害」という部分を受けて、「市のサポート」の中に「正しい情報の提供」という点をどこかに入れていただきたい。これは市がやらなくてはいけないことだと思う。
- ・次に、32頁について述べたい。68頁にも同じことが言えるが、あくまで私個人の意見として言わせてほしい。平成22年の人権に関する市民意識調査の結果が記載されているが、これに対する認識として、「若い世代ほど人権問題に対する関心が薄いことがうかがわれます。このため若い世代に対する人権意識をどのようにして高めていくかが課題となっています。」と結論付けられている。
- ・私はこの全く逆であると考えている。三木市は様々な人権に関する学習や啓発を行ってきた結果、若い世代には浸透しており、むしろ50～70代にこそ人権意識の教育をしなければいけないと考えている。よって、ここの結論付けは私の考えと異なっている。

(里見教育委員長)

- ・26頁の①に「3歳児からの教育・保育の充実とともに、適正な集団を確保し、より充実した0～5歳児の教育・保育を実施する。」と書かれているが、この「適正な集団を確保し」というのは、0～5歳児にかかっているのか、それとも3歳児にかかっているのか。

(藪本市長)

- ・委員の方々から出された意見等について、まずは頁数の若い26頁に関する部分についてから事務局の考えを述べてほしい。

(永尾こども未来部長)

- ・0～5歳までの中で、3歳以上の子どもたちについては幼稚園の部分にあたるので、集団の中で育てていかなければいけないという意味から、「適正な集団を確保し」と入れている。従

って、これは3歳以上ということになる。

(里見教育委員長)

- ・それであれば、「適正な集団を確保し、3歳児からの教育・保育の充実とともに～」というように前にもってくるべきではないか。

(永尾こども未来部長)

- ・「適正な集団を確保し、3歳児からの教育・保育の充実とともに～」というように変更する。

(藪本市長)

- ・次に、27頁に関する意見についてはいかがか。

(永尾こども未来部長)

- ・教育基本法によると、「子の教育」となっているので、それが正しいと思う。

(里見教育委員長)

- ・しかし、これは家庭教育に関することの中で書かれているので、現行のままで良いのではないか。

(永尾こども未来部長)

- ・教育基本法の第十条では、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって～」と書かれている。

(里見教育委員長)

- ・ここは、学校教育、家庭教育、社会教育に分かれており、第十条には「家庭教育」という見出しがある。親が教育の全てを担うのは大変であり、そのために、学校教育、家庭教育、社会教育と分かれているのだと思う。よって、27頁では家庭教育とした方がわかりやすいと思う。

(藪本市長)

- ・参考資料編の85頁に教育基本法が掲載されている。第十条

を見ると、かっこ書きで見出しが「家庭教育」となっているので、27頁は現行の書き方で間違いはないと思う。井口委員もそれで宜しいか。

(井口委員)

・はい、わかりました。

(藪本市長)

・次に、28頁にある「情報過多による弊害」の部分を受けて、第4章の58頁にある「市のサポート」の部分において、正しい情報をきちんと提供していくという点を市の支援として入れるべきではないかというご意見が出された。この点についてはいかがか。

(永尾こども未来部長)

・その点を入れるべきだと思う。具体的には、「市のサポート」部分の上から6行目にある「学習機会や情報を提供する～」というところにおいて、「学習機会や正しい情報を提供する」というように変更する。

(藪本市長)

・井口委員、それで宜しいか。

(井口委員)

・はい。

(藪本市長)

・次に、32頁に関するご意見が出されたが、これについては現行のままで良いと思うので却下させていただく。  
・井口委員のおっしゃったご意見も良くわかるが、三木市では特に若い世代に対する取組を進めている。市民ふれあい部長もそれで宜しいか。

(山本市民ふれあい部長)

・はい。

(藪本市長)

- ・それでは、46～76頁の第4章「三木市教育大綱」の部分についてご意見や質問等をお願いしたい。

(松本教育長)

- ・48頁について意見を述べたい。上から9行目の文章は、前段の8行を受けて、「三木市としては～」というような前振りが必要である。また、それに続く「さらに」からの6行についても、「三木市としては～」というような前振りがあるのではないか。三木市がやるべきことが書かれているこれらの文章が、上手くつながっていないように思う。
- ・次に50頁についてだが、ここも前段と最後の3行をつなぐ言葉がないので考える必要がある。
- ・また、議論する必要がある点として、66頁における最後の3行について述べたい。ここでは、「課題は残ります。」という形で終わっているが、課題を残したまま「統廃合しない」という結論で終わるのはいかがなものか。ここは、「課題の解消を図りつつ取り組みます」など、もう少し積極的な結び方に変更した方が良いのではないか。

(水島教育委員長職務代行者)

- ・60頁の最後2行に、「これからの社会を生き抜く児童生徒には、国際共通語としての英語の語学力を用いたコミュニケーション能力を身に付けさせ～」と書かれている。この「～させる」という書き方を「児童生徒は、～コミュニケーション能力を身に付け～」というように、何かをさせるといった書き方ではない形に変更できないか。

(井口委員)

- ・48頁の一番下に「真のグローバル人材」という言葉があり、これについては納得できる。しかし、上の囲みの中に書かれている「国際感覚を持ったグローバル人材」という言葉がしっくりこない。グローバル人材というのは国際感覚を持った人のことを言うのではないか。

(里見教育委員長)

- ・概要版について意見を述べたい。会議の冒頭で市長もおっしゃったように、現状と課題の部分が詳しく書かれており、教育大綱の部分については非常に分量が少ない。ここが一番大事であり、市民の方々は概要版の方を読まれると思うので、できる限り詳しく書いてほしい。
- ・また、表現の仕方や文体について述べたい。例えば、概要版の中で「子どもたち」と「子ども達」が混在していたり、「である調」と「ですます調」の文体も揃っていないので、公表する前までに整理してほしい。

(藪本市長)

- ・里見委員長がおっしゃった点は、第4章の根幹に関わることなので後で議論することとして、まず48頁に関するご意見について事務局から回答してほしい。

(永尾こども未来部長)

- ・「国際」と「グローバル」が二重表記になっているので、単に「グローバル人材」という表記のみに変更しても良いかもしれない。

(里見教育委員長)

- ・私はむしろ「国際感覚を持った」という言葉がある方がわかりやすいと思う。もちろん重複した表記になってしまうが、感覚的にあった方が良いのではないかと思う。

(永尾こども未来部長)

- ・確かに意味は重複しているが、「国際感覚を持った」という文言が付いている方が、市民の方々にはわかりやすいのかもしれない。里見教育委員長のお話を伺ってそのように思った。

(藪本市長)

- ・「国際感覚を持った人材を育てます」という方が良いが、後に出てくる「真のグローバル人材」という表現につなげていきたいことから、意味が重複してしまうがあえて「国際感覚を持ったグローバル人材」という形にしたいということ。井口委員もそれで宜しいか。

(井口委員)

- ・はい。

(藪本市長)

- ・松本教育長がおっしゃった本編48頁に関する意見について、確かに最初のパラグラフと二つ目以降のパラグラフをつなぐ言葉がないと思うが、これについてはいかがか。

(永尾こども未来部長)

- ・二つ目のパラグラフの冒頭に、「三木市としては」という文言を加えると、三つ目のパラグラフは「さらに～」と続いているので、これで意味はつながるのではないか。

(藪本市長)

- ・それにつながるので、そのようにしたい。
- ・次に50頁について、ここも最初と二つ目のパラグラフをつなぐ言葉がない。山本市民ふれあい部長、どのようにすべきか回答してほしい。

(山本市民ふれあい部長)

- ・二つ目のパラグラフを、「さらに、人権尊重と文化やスポーツのまちづくりを通じて～」という形に変更したい。

(藪本市長)

- ・それにつながるので、そのようにしたい。
- ・次に60～61頁について、水島委員から出された「～させ」という表現は使わない方が良いのではという意見についてはいかがか。

(永尾こども未来部長)

- ・私はこのままで良いと思う。教育の中で「～させ」という言葉を使うことはあるので、このような形で良いと思う。

(藪本市長)

- ・他の教育委員会の職員もそれで宜しいか。

(野口学校教育課長)

- ・教育の中ではよく使う言葉なので、私もこのままで良いと思う。

(藪本市長)

- ・教育長はいかがか。

(松本教育長)

- ・これは子どもや保護者に直接言っている言葉ではなく、教育委員会が所管する学校の教職員に向けて言っていることなので、このままの表記で良いと思う。

(藪本市長)

- ・このような意見が出ているが、水島委員はいかがか。

(水島教育委員長職務代行者)

- ・「～させ」という表記ではない形に読み替えてみた。しかし、今の説明を聞いて納得したので現行のままで良いように思う。

(藪本市長)

- ・私はとった方が良く思うが。

(水島教育委員長職務代行者)

- ・他にはこのような表現はなく、ここだけ「～させ」という形で書かれていたので気になった次第である。

(藪本市長)

- ・水島委員が納得されたのであれば、現行のままでいきたいと思う。
- ・次に66頁の最後の部分について、「保護者・地域の理解等課題が残ります」という表現で終わっていて良いのかという松本教育長のご意見であるが、これはその通りだと思う。
- ・松本教育長がおっしゃったように、「課題の解決を図りつつ～していきます」といったように変更すべきかと思うが、それであれば、具体的にどのような解決策を講じていくのかについて

も書くべきである。

- ・単に「課題を解決しながらやっていきます」とするのではなく、小規模校の件について不安を抱いている市民の方が多くおられるので、その方々に対して、どのように解決を図っていくのかセットで示すべきである。

(松本教育長)

- ・ICT環境の整備や教育課程の整備については、やっていかなければいけないことであり、実際にやれることだと思う。スクールバス等の移動手段の確保についても既に明記しており、やれることである。
- ・最後の保護者や地域の理解等については、「統廃合しない」という方向性について、やはりどこかで説明しないといけない。安心感を持ってもらえるように、統廃合はしないが、ここで書かれているような小規模校対策をやっていきますといった説明をしないといけない。それを学校ごとにやるのか、あるいは地区ごとに公民館でやるのかは検討する必要がある。
- ・よって、「～することによって課題を解決しながら進めていきます」という書き方が良いように思う。

(野口学校教育課長)

- ・66頁に小規模校対策を3点あげているので、最後の3行はいらぬのではないかとも思う。

(里見教育委員長)

- ・私もそのように思う。最後の3行に書かれている内容のことは、当然やらなければいけないことなので、ここでわざわざ書く必要はないのではないか。
- ・この3行を書くのであれば、三つの対策の前に入れるべきであり、「保護者・地域の理解を得ながら～のような工夫をしていきます」という形で結ぶべきである。

(藪本市長)

- ・最後の3行には解消策の方法が書かれているわけだが、保護者・地域の理解等というのは、ここだけに特筆すべきことではなく、全般にかかってくることである。

- ・統廃合に関わる問題であるだけに、あえて書きたいというのであれば、里見教育委員長がおっしゃったように、前半部分に入れるべきではないか。
- ・いずれにしても、教育課程の編成をどのようにしていくのかなど、もう少し具体的に書けることを入れて、結びはやはり「～を行うことで課題の解消を図りつつ進めていきます」といったように変更すべきである。このような形で宜しいか。

(永尾こども未来部長)

- ・はい。

(藪本市長)

- ・それでは、根幹的な問題である65～67頁に書かれている基本目標②について議論したい。ここは実際には2頁と4分の1しか書かれていない。
- ・概要版の6頁には、小規模校のデメリット解消策例という図が載っているが、本編には入っていない。本来であれば、概要版には本編に載っていることを要約して抽出するものであるが、本編にないものを入れるのはおかしい。
- ・ここは市民の方が一番関心を持たれる部分であり、非常に時間をかけて議論をしたはずであるが、基本目標①と③に比べてとても短くなっている。三つの基本目標が均等になるように、基本目標②についても①や③と同じくらいの分量にすべきである。
- ・私は概要版を一刻も早く公表したいと考えていたが、先ほど里見教育委員長もおっしゃられたように、概要版についても本来の教育大綱の部分が非常に薄い。そういう意味では、今日、概要版を公表することはできない。
- ・概要版については年内に修正してもらえない。本編は越年して、もう少し時間をかけて進めていく必要がある。市民の方には教育に関心のある方が多くおり、三木市の教育大綱がどのようになるのか期待と不安を抱いておられると思う。
- ・概要版については、冒頭の「はじめに」の部分をもう少し膨らませてほしい。また、4頁の基本理念について、会議でどのような議論を経てこのような理念にしたのかが全く書かれていない。これを受けて、基本目標と基本方針の部分を増やすべ

きである。

- ・概要版は15頁になっても構わない。里見教育委員長がおっしゃったように、市民の方はお忙しいので本編を読んでいただくのは難しいと思う。よって、概要版は年内に修正し、公表できるようにしたい。

(里見教育委員長)

- ・概要版の理念の部分には、本編の「はじめに」の文章を入れても良いと思う。
- ・私たちは、これだけ教育について議論し、教育大綱を策定しようとしている。しかし、子どもたちは学校を卒業したら神戸や東京に行ってしまう。こんな残念なことはない。
- ・しかし、教育が良いと思って三木市に来てくれる人が出てきたり、今あわせて進められている地方創生計画においても、産業振興や雇用の創出など色々な取組が進められている。
- ・三木市において一番問題であると感じているのは、若い女性の転出超過が他市に比べて非常に高いことが挙げられる。そのためにも、三木市の学校に入れたいと思ってもらえるような教育大綱の内容でないといけない。

(藪本市長)

- ・教育大綱の大本は地方創生計画である。その中の教育という一つの大切な項目であり、車の両輪のように動いている。だから、作成の時期についても同じように年末にしてきたわけである。しかし、今回の大綱では、地方創生計画をあまり読まずに作成しようとしており、見せ方や訴える力が弱いと感じた。
- ・教育大綱を読んで、三木のまちで子育てをしてみようと思ってもらえるようなものにすべきであり、地方創生計画の中の一つの大切な項目なのだということを心に留めた上で、もう一度作り直してほしい。